

先輩たちの生き方に学ぼう

人には様々な生き方があります。インタビューを読んで、先輩たちの進路選択に学びましょう。

市電乗務員 松倉 由江さん

函館で生まれ育ち、市電は身近な存在。人の役に立つ仕事がしたくて、市電の運転士にチャレンジしました。

通勤や通学などで毎日利用される方はもちろん、観光や出張で函館を訪れた方に気持ちよくご利用いただけるように、安全運転と笑顔や心配りを大切にしています。

函館の市電は、移動手段としてご利用になる方だけではなく、電車が好きな方や、地元の方など、たくさんの方々に支えられ、見守られていて、その市電を運転する運転士という仕事にとってもやりがいを感じます。

市電の運転士をする上で男女の差を感じることはあまりありませんが、男性が多い職場なので、女性運転士がこれから増えていけばもっと働きやすくなるのではないかと思います。

みなさんには、自分が楽しいと思えることを仕事にするためにも、学校生活や習い事などでたくさんの仲間を作り、やってみたいと思うことにチャレンジする中で、具体的な目標を見つけ、自分の可能性を広げていってほしいと思います。



保育教諭 佐藤 翔太さん



保育士は女性の仕事というイメージはありましたが、子どもと遊ぶことが好きだったことや、中学生の時に男性保育士のドラマを見たことがきっかけで、性別に関係なく、なりたい職業になれるのだと自信を持ち、高校卒業後に専門学校に2年通って、保育士になりました。最初は女性ばかりの職場

で戸惑いましたが、男女関係なく仕事に携わることができるので、とても楽しく、働きやすいです。子どもの気持ちに寄り添って接したり、一緒に鬼ごっこやボール遊びなど、体をたくさん動かして遊ぶほか、イメージしたものを描いたり作る制作活動や、歌や音楽に合わせて踊る表現活動など、子ども達と楽しいことをたくさん経験する、とてもやりがいのある仕事です。また、子どもの「がんばる力」はすごいパワーで、著しい成長を常に間近で見ることができ、とても感動します。

みなさんには、自分がやりたいことを信じて目標に向かって一生懸命努力することや、家族・先生・友達など周りの人に感謝の気持ちを持つこと、様々な経験を通して自分の頭でじっくり考えることを大切にして、これから頑張っていってほしいです。